

Life is a Journey

加野 まさみ

MAKIMI Kano

京都産業大学 文化学部 准教授
専門分野：英語学、コーパス言語学、辞書学

略歴

京都生まれ。関西外国語大学・ファーマン大学(アメリカサウスキャロライナ州)で学位号取得後、大阪大学大学院言語文化研究科入学。ドイツでの2年間の留学を経て、博士(言語文化学)を取得。文化女子大学室蘭短期大学コミュニティ総合学科に5年間務めた後、2007年京都産業大学 文化学部に着任。



BEST SHOT

最近のお気に入り、ウィーンで一目惚れして買ったLobmeyrの「シャンパンカップ」。1912年にJosef Hoffmannによってデザインされたシリーズの中の一点。これも「オフ」スイッチの一つです♪

My Hobby

小さい頃から辞書が大好きで、英英、英和、和英、国語、その他の言語の辞書などいろいろ持っています。iPhoneの中には常時50種類以上の辞書アプリが入っているほどです。旅行も好きで、時間があれば飛行機に乗って海外へ出かけたいです。特にヨーロッパの古い町並みを見ながら、その土地のものを飲んで食べて過ごすのが大好きです。

最近の主な論文・評釈

- 著書：『コーパスを活用した認知言語学』大修館書店 2010
『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店 2014
『英語コーパスを活用した言語研究』大修館書店 2016
- 辞書執筆：『プログレッシブ英和中辞典』第5版 小学館 2011
『ジーニアス英和辞典』第5版 大修館書店 2014
- 論文：「Global War on Terror」以降のterrorの語法・意味の変化：新聞アーカイブ・コーパスにおける使用実態調査」『言語研究』138: 67-97 (2010)
- 論文：“Revealing factors affecting learners’ sense of ‘difficulty’ in extensive reading through reader corpora” *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 198: 211-217 (2015)

研究紹介

コーパスと呼ばれる大規模な言語データベースを使って、年代を遡ることにより、借用語や新語が英語の中でどのように変化して定着していくかを調査します。新しく英語に導入された語は、他の英語の単語と結びついてコロケーションを形成したり、接頭辞や接尾辞が付与されて新たな意味や品詞で使われるようになり、比喩として使われるうちに意味が変化したりして、新しい意味や語法を獲得し、英語として生産性を持った語彙として受け入れられます。また、コーパスを使って大量のデータを分析することにより、これまで明らかになかった語法やコロケーションを見出すことができます。また、それらの発見を英語辞書に反映させる作業も行っています。辞書の改訂の際には、英語辞書の中の使われなくなった古い用法をアップデートし、常に最新の状態を維持するだけでなく、より現実に即した用法を記述することを目指しています。



界で同じようなことに興味を持って研究を行う研究者と出会うと語り合ったりできることも大きな魅力です。

座右の銘

Life is a Journey(人生は旅である)

これは認知言語学者George Lakoffが、メタファー(比喩表現)は、文学などの特殊技法ではなくて、日常的な言語や私達の思考や行動の奥にまで存在しているものだという主張をするときに用いるメタファーの例なのですが、まさにその通り(「人生が旅にたとえられる」と、「比喩がまさに自分の思考の奥深くにまで入り込んでいる」ということ両方)だなと思っています。

研究とプライベートの両方で工夫していること

研究という仕事は、一日の終わりに職場を離れたらおわりという訳には行かないので、オン・オフの区切りをつけるのが難しい仕事です。考え続ける余りに、夢の中でまで研究をしていることがあります(夢の中で研究の突破口となるヒントを思いつくことも!)。ですから、「オフ」への切り替えスイッチとなる活動を用意するようにしています。その一つが料理です。古い友人とたわいもない話をしながら作った料理を囲めば、一気に「オフ」のスイッチに切り替わり、また翌日からの仕事への活力に繋がります。

未来の研究者へ一言

未来の研究者へのメッセージと言うよりは、将来研究者になるかどうか迷っている人へのメッセージです。確かに研究者という仕事はすべての人向けの仕事ではありません。だからといって、ものすごく「オタク」な職業でもありません。常にいろんなことに好奇心や疑問を持ち、いろんな情報源を活用して答えを見出すのが好きな人には向いていると言えるでしょう。誰かが調べた豆知識に「へえ〜。」とただ満足せず、自分で真相を追求して行く姿勢で臨めれば、道は開けると思います。

研究テーマ

コーパスと呼ばれる大規模な言語データベースを使って、主に英語の語法・意味などを観察するという手法の研究を行っています。研究結果を英語辞書に反映させるために、辞書の改訂にも取り組んでいます。

研究の道へ進んだきっかけ

きっかけはアメリカ留学中の二つの出会いでした。一つは図書館で、世界最大の英語辞書であるOxford English Dictionary(紙のものだと何キロもある分厚い本が20巻で1セット)が、CD-ROMたった一枚に収録されていて、パソコンを使って様々な方法で検索できることを知ったこと。もう一つはマッキントッシュとの出会いです。それまでレポートを書くために使っていた味気ない文字ばかりが並ぶパソコンと全く違うインターフェイスの美しさに魅了され、連日、CD-ROMから集めたデータをまとめて表にしたり、グラフにしたりするのが楽しくてモニターの画面を見続けた(お陰でそれまで自慢だった視力が一気に悪くなってしまったけど!)。卒業プロジェクトが完成する頃には、自分で「私、こういう作業に向いてるな。」と思い、大学院へ進学することにしました。

研究者になってよかったと思うこと

一番はよかったと思うのは、自分が興味を持ったことを探求する作業を職業としてできることです。それに加えて、自分の研究成果を世界のいろいろなところに行き人に伝えたり、また世

